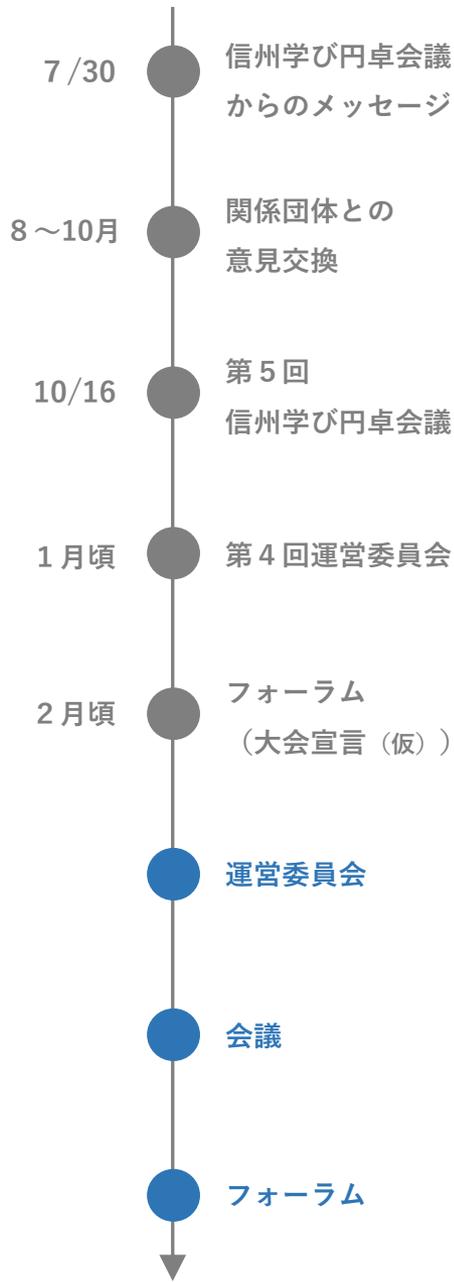


R6

検討・具体化フェーズ

R7

実行フェーズ



R6

これまでの議論に基づくメッセージを発信し、県民と方向性を共有

■これまでの円卓会議・県民意見交換会を通じて長野県の教育や学びに係る課題や論点に関して概ね議論されたものと思料。

信州学び円卓会議は、議論の場としての役割を果たし、一定の成果を上げたところ

R7

学びの「新しい当たり前」への転換に向けた様々な主体の連携・協働を促進

■R7年度以降、これまでの「議論」を「実行」へと移していくことが求められていることから、共有した方向性に基づき様々な主体が当事者意識を持ち、連携・協働しながら具体的な行動を起こしていくことが重要となる。

様々な主体の連携・協働の促進や取組状況の発信等に取り組み、

県民全体の機運醸成を図ることで、

「学びの『新しい当たり前』を共に創る」ための取組を県下に拡大していく

## 考え方

- R7年度以降の実行フェーズにおいては、これまでの「議論」を「実行」へと移していくことが求められている
- 実行の推進に当たっては、主に「教育や学びの現場に関わる主体」が当事者意識を持ち、連携・協働しながら具体的な行動を起こしていくことが重要となる
- したがって、「教育や学びの現場に関わる主体」の行動を促すため、様々な主体の連携・協働の促進や取組状況の発信等に取り組み、県民全体の機運醸成を図る必要がある

## 進め方（案）

目 的	様々な主体の連携・協働の促進や取組状況の発信等に取り組み、県民全体の機運醸成を図ることで、 <u>「学びの『新しい当たり前』を共に創る」ための取組を県下に拡大していく</u>
事業内容	① <u>取組及び成果の共有、相互の意識の高揚、連携・協働の促進</u> ② <u>県民への取組状況の発信、県民全体の機運醸成</u> → 以上の事項を実施するため、取組状況を確認する会議や、「教育や学びの現場に関わる主体」を対象としたフォーラム等の開催を検討

実行フェーズにおいては、発信したメッセージを浸透させていくため、引き続き信州学び円卓会議の委員の皆様にご協力をいただきたい。合わせて、教育や学びに関わる関係団体の皆様にも協力を依頼していく。